

YBHD NEWS No.28

平成23年11月

株主通信



つなぐ、むすぶ、広げる、未来へ

The Next Perspective



株式会社 横河ブリッジホールディングス



取締役社長

吉田 明

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、株主通信「YBHD NEWS」第28号をお届けし、第148期上半期（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）の事業の概況につきまして、別記のとおりご報告申し上げます。

当上半期のわが国経済は、東日本大震災の影響による停滞から回復の途上にありますものの、欧州の財政不安による海外経済の減速や円高の進行による輸出関連企業の収益の悪化など、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

建設業界におきましても、景気低迷による民間建設投資の抑制や公共事業費の削減により受注競争が激化するなど、総じて厳しい状況が続いております。

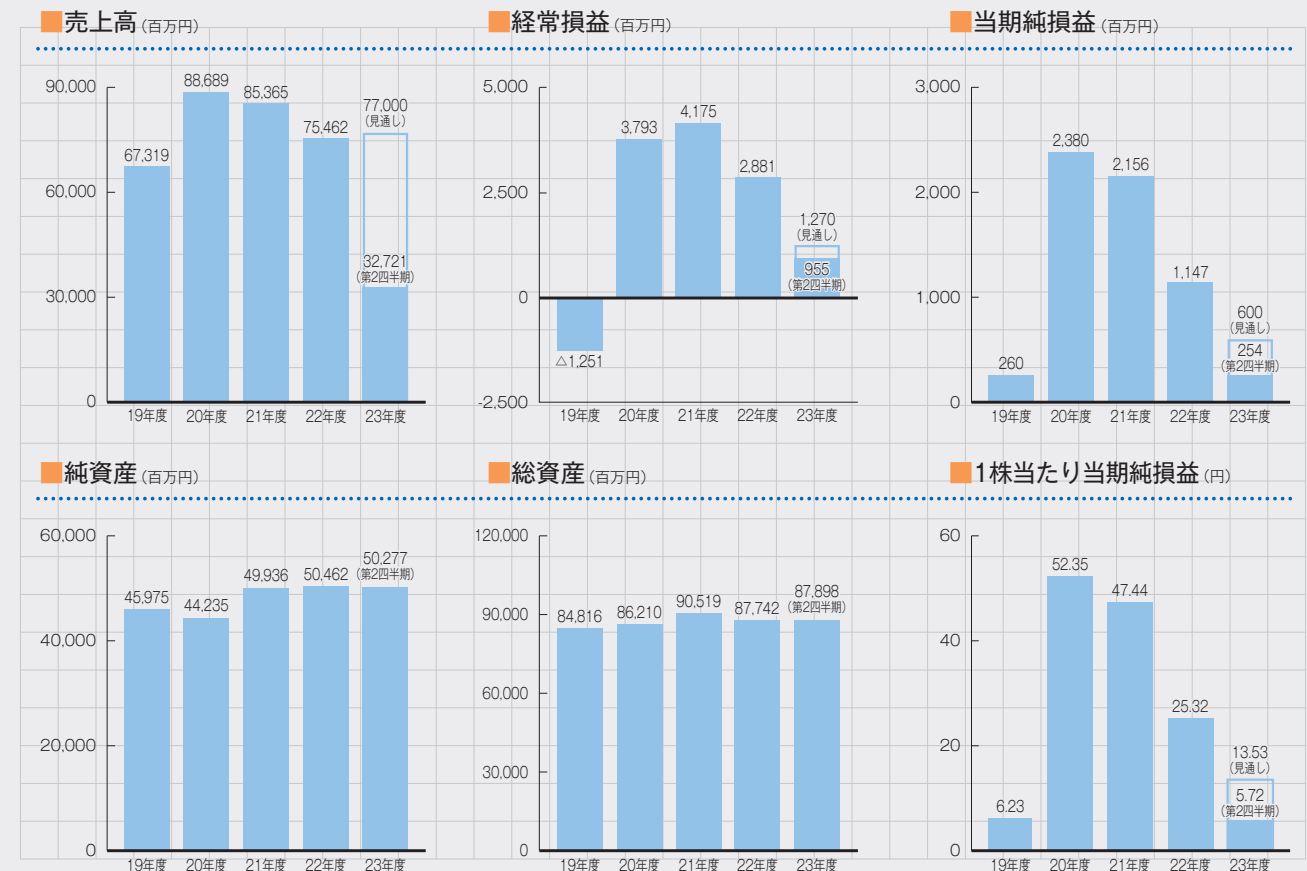
このような環境下にあります、当社グループの業績は後ほど申し上げる結果となりました。

当社は、株主の皆様に対する利益配分を最重要施策の一つと認識し、業績・配当性向などを総合的に勘案のうえ安定した配当をすることを基本方針としております。当期の中間配当金につきましては、1株につき4円50銭とさせていただき、10月31日開催の取締役会で決議いたしました。期末配当と合わせた年間配当金は9円とさせていただき、予定しております。

当社グループを取り巻く事業環境は依然として厳しい状況が続いておりますが、役員・従業員一同、株主の皆様のご期待に応えられますよう努力してまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年11月

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度 (第2四半期)
売上高 (百万円)	67,319	88,689	85,365	75,462	32,721
経常損益 (百万円)	△ 1,251	3,793	4,175	2,881	955
当期純損益 (百万円)	260	2,380	2,156	1,147	254



当社グループの第2四半期の業績につきましては、

受注高は307億7千万円
(前年同期252億8千万円)

売上高は327億2千万円
(同368億8千万円)

四半期純利益は2億5千万円
(同10億1千万円)

となりました。

各事業別の状況は
次の通りです。

1 橋梁事業

受注高は、223億7千万円(前年同期比44億4千万円増)、売上高は246億7千万円(同36億3千万円減)となりました。受注高につきましては、第2四半期終盤になって国土交通省発注工事の受注が相次ぎ、前年同期受注高を上回ることができました。売上高につきましては、第1四半期は着手してから日が浅い工事が多かったため減収となり、第2四半期に入りましても受注時期のずれ込み等により生産量が伸びず、前年同期を下回る結果となりました。売上高が想定を下回るなかで、個別工事の創意工夫による生産性の向上、原価管理の徹底などにより利益の確保に努めました。

下期には今期受注工事も工程に組み込まれ、生産量が確実に増加いたしますので、業績の向上に向けてさらなる努力をしてまいります。

2 建築環境事業

受注高は、79億2千万円(前年同期比15億7千万円増)、売上高は64億5千万円(同1億9千万円減)となりました。建築環境事業のうち、システム建築事業の売上高は、販売

促進活動の成果が現れ、前年同期を若干上回りましたが、建築事業と環境事業の売上高は減少しました。システム建築事業につきましては、下期は政府の第3次補正予算により震災復興関連事業が本格化していく見込みですので、被災された地域の復興を支援するためにも積極的に営業展開をしてまいります。

今後は、円高、欧州金融危機、タイの洪水など多くの下振れリスク要因がありますが、販路拡大などの方策を講じることで受注量の確保に努め、通期黒字化を目指します。

3 先端技術事業

受注高は、4億7千万円(前年同期比5億2千万円減)、売上高は11億円(同2億4千万円減)となりました。受注高につきましては、精密機器製造事業、情報処理事業とも低調に推移しており、前年同期に対し半減いたしました。特に液晶テレビ需要の低迷による液晶パネルメーカーの設備投資先送りが大きく影響しております。

今後は、内製化率を高め、変動費を削減することで利益の減少を最小限に食い止めるとともに、新製品・新規顧客の開拓に引き続き注力してまいります。

4 不動産事業

不動産事業の売上高は、4億7千万円(前年同期比7千万円減)となりました。

今後の見通し

平成23年10月31日に公表しました平成24年3月期第2四半期決算短信に記載しております通り、第3四半期以降の生産量は橋梁事業を中心に増加いたしますが、当第2四半期累計期間までの遅れを取り戻すまでには至らない見込みであるため、売上高を修正いたしました。なお、通期の営業利益、経常利益、及び当期純利益につきましては、当第2四半期累計期間の営業利益、経常利益が小幅な減少に止まったため、当初の公表数値を確保する見通しです。平成24年3月期の通期連結業績予想は売上高770億円、営業利益12億円、経常利益12億7千万円、当期純利益6億円と予想しております。

Topics

1

関東地整管内の橋梁詳細調査等業務において 優良表彰を受賞

株式会社ワイ・シー・イーが、このたび国土交通省関東地方整備局関東技術事務所より、優良業務表彰を受賞いたしましたので、その概要をご紹介します。

- ・受注業者: 平成22年度関東地整管内橋梁詳細調査等業務
JBEC・ワイ・シー・イー設計共同体
- ・業務名称: 平成22年度関東地整管内橋梁詳細調査等業務
- ・履行期間: 平成22年9月11日～平成23年3月31日

本業務の主な内容は、関東地方整備局管内の13橋(鋼橋)について、疲労き裂を対象とした損傷状況の調査と、構造解析や実橋の応力計測による損傷要因の解明と補修補強対策の概略検討です。業務は(財)海洋架橋・橋梁調査会(JBEC)と同社の設計共同体で受注し、同社の担当は、詳細目視調査が5橋、磁粉探傷試験が8橋、超音波探傷試験が4橋、応力計測が2橋、構造解析が3橋と大変ボリュームの多い業務でした。履行期間は約7ヶ月と大変短く、さらに独立行政法人土木研究所の構造物メンテナンスセンター(CAESAR)から技術指導を受けながら業務を遂行することが

要求されていました。この難しい要求に対して真摯に対応し、かつ履行期間内に業務を完成した技術力はもとよりその総合力が発注者から大きな信頼と評価をいただけたと考えております。

ワイ・シー・イーは、YBHDグループの橋梁保全に関する建設コンサルタント会社として出発して6年になりますが、国土交通省から初めての表彰を受賞しました。これを機にさらなる業務拡大に精進してまいります。



現場計測状況

Topics

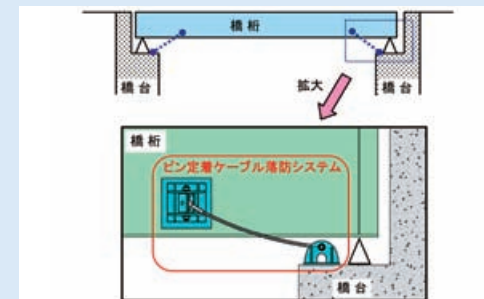
2

橋の落橋を防ぐ、「ピン定着ケーブル落防システム」 の商品開発について

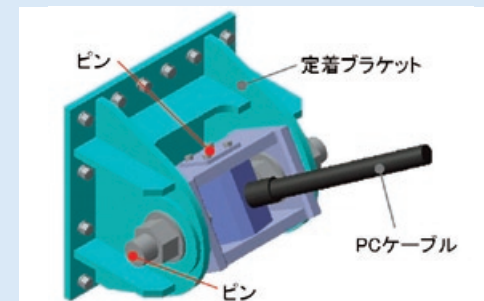
大規模な地震による地盤の崩壊や橋の振動による“落橋”を防ぐためのフェールセーフ機構として、落橋防止システムと呼ばれるものがあります。当社グループでは、この落橋防止システムに関連した数種類の新商品を開発・販売しております。これらの新商品のうち、当社総合技術研究所が開発した「ピン定着ケーブル落防システム」(以下、ピン定着落防)についてご紹介いたします。

ピン定着落防は、図-1の青色の破線で示すように、橋桁と橋台を繋ぐように設置します。ピン定着落防の大きな特徴は、図-2の赤色の線で示した箇所にピン機構が組み込まれており、落橋防止システムを現場で簡単に取り付けることを可能にしました。さらに、このピン機構には衝撃力を緩和するための緩衝材が合わせて組み込まれており、地震がもたらす大きな衝撃力が構造物に与えるダメージを低減させることができます。

今後は多くの関係機関で本商品を採用していただけるように、営業活動を展開してまいります。



(図-1) ピン定着落防の取付け場所



(図-2) ピン定着落防の構造



施工実施例

連結財務諸表

Financial Statements

■ 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結会計期間末 平成23年9月30日現在	前 期 末 平成23年3月31日現在
資産の部		
流動資産	50,868	54,061
現金預金	8,491	11,389
受取手形・完成工事未収入金等	29,155	36,187
有価証券	7,466	814
たな卸資産	1,755	1,414
その他	4,045	4,294
貸倒引当金	△ 46	△ 38
固定資産	37,030	33,681
有形固定資産	21,711	18,199
土地	12,317	9,408
その他(純額)	9,393	8,790
無形固定資産	1,027	1,036
投資その他の資産	14,291	14,444
投資有価証券	9,357	9,488
その他	5,127	5,153
貸倒引当金	△ 193	△ 197
資産合計	87,898	87,742

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結会計期間末 平成23年9月30日現在	前 期 末 平成23年3月31日現在
負債の部		
流動負債	22,713	24,861
支払手形・工事未払金等	12,538	12,588
短期借入金	-	2,000
1年内返済予定の長期借入金	1,000	-
未払法人税等	643	780
未成工事受入金	2,830	3,288
工事損失引当金	3,095	3,253
賞与引当金	1,544	1,632
その他の引当金	99	118
その他	960	1,198
固定負債	14,907	12,419
長期借入金	6,723	4,000
退職給付引当金	6,836	7,054
役員退職慰労引当金	776	771
負ののれん	43	64
その他	528	528
負債合計	37,621	37,280
純資産の部		
株主資本	52,721	52,926
資本金	9,435	9,435
資本剰余金	10,088	10,088
利益剰余金	33,892	33,839
自己株式	△ 695	△ 437
その他の包括利益累計額	△ 3,102	△ 3,045
その他有価証券評価差額金	△ 772	△ 715
土地再評価差額金	△ 2,329	△ 2,329
少数株主持分	658	581
純資産合計	50,277	50,462
負債純資産合計	87,898	87,742

■ 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結累計期間 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	前第2四半期 連結累計期間 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで
売上高	32,721	36,882
売上原価	28,422	31,630
売上総利益	4,298	5,252
販売費及び一般管理費	3,411	3,487
営業利益	886	1,764
営業外収益	232	813
営業外費用	163	186
経常利益	955	2,391
特別利益	4	17
特別損失	63	511
税金等調整前四半期純利益	895	1,897
法人税等	565	960
少数株主損益調整前四半期純利益	330	936
少数株主利益又は少数株主損失(△)	76	△ 75
四半期純利益	254	1,012

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結累計期間 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	前第2四半期 連結累計期間 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	6,985	3,067
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 5,627	△ 2
財務活動による キャッシュ・フロー	1,264	△ 3,212
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△ 16	△ 11
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	2,605	△ 159
現金及び現金同等物の 期首残高	11,359	12,310
現金及び現金同等物の 四半期末残高	13,964	12,151

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況

発行可能株式総数	180,000,000株
発行済株式総数	45,564,802株
株主数	5,166名

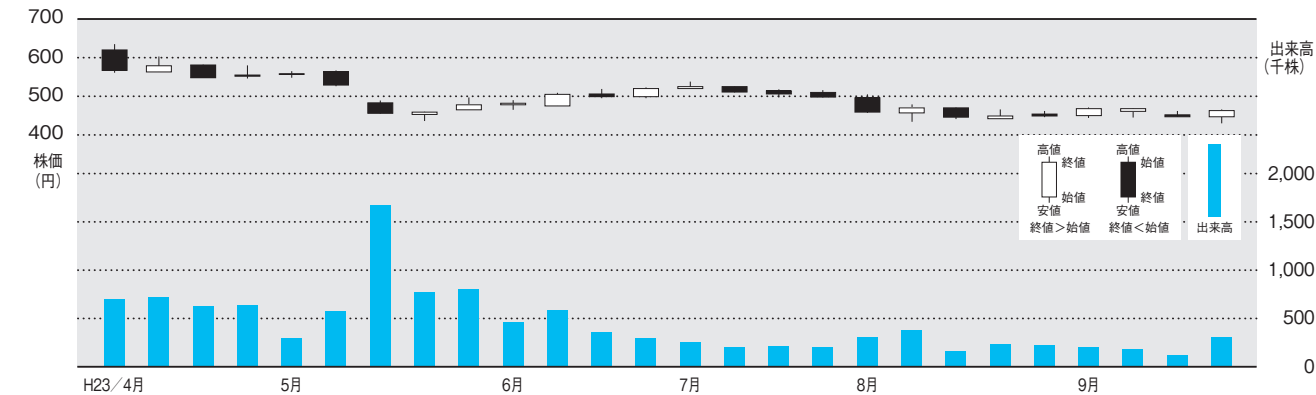
大株主 (上位10名)

株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
横河電機株式会社	2,793,691	6.32
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,184,000	4.94
新日本製鐵株式会社	1,987,303	4.50
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,793,000	4.06
チェース マンハッタン バンク ジーティーエス クライアーツ アカウト エスクロウ	1,600,000	3.62
瀧上工業株式会社	1,140,000	2.58
日本生命保険相互会社	968,839	2.19
株式会社みずほコーポレート銀行	890,612	2.02
三井住友海上火災保険株式会社	733,000	1.66
住友不動産株式会社	674,000	1.53

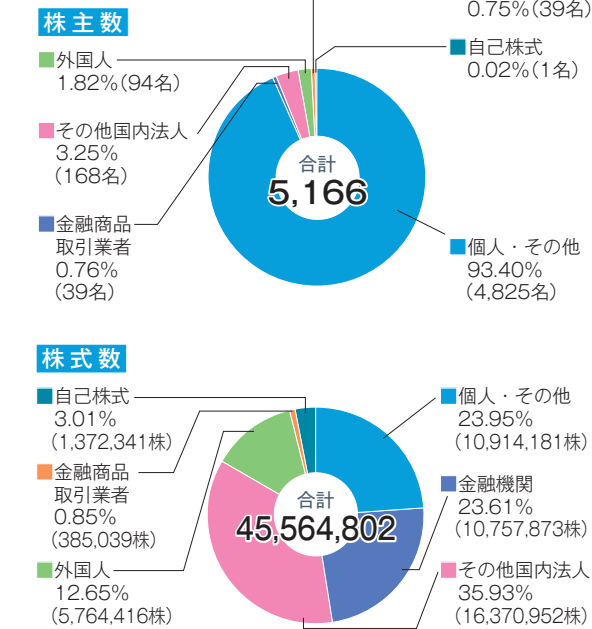
(注) 1. 当社は、自己株式を1,372,341株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株価および出来高の推移



株式分布状況



会社概要

社名	株式会社横河ブリッジホールディングス
所在地	〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL:03-3453-4111(代表)
資本金	9,435百万円
主な機能	経営戦略、法務・監査、経理・財務 総務・人事、IR・広報、技術研究開発

役員一覧 (平成23年9月30日現在)

代表取締役会長	佐々木 恒容
代表取締役社長	吉田 明
取締役	佐々木 保隆
取締役	藤井 久司
取締役	上原 修
取締役	猪岡 修治
取締役	小川 克美
取締役	宮田 安敏
取締役	高田 和彦
常勤監査役	北爪 恒平
常勤監査役	深沢 誠
監査役	志々目 昌史 (社外監査役)
監査役	松本 恒夫 (社外監査役)
監査役	八木 和則 (社外監査役)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金 交付株主確定日	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 〒105-8574 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120(78)2031(フリーダイヤル)
同取次窓口	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	http://www.ybhd.co.jp/

※表紙の写真は、ベトナム南北統一鉄道の
橋梁改修工事のうちNo.27バァ・バァウ
橋梁の組立状況(橋長102m)

 **株式会社 横河ブリッジホールディングス**

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL. 03-3453-4111(代表) <http://www.ybhd.co.jp/>

YBHDグループ

-  **株式会社 横河ブリッジホールディングス**
グループ全体の経営管理
-  **株式会社 横河ブリッジ**
橋梁・橋梁関連製品・精密機器製造
-  **横河工事株式会社**
土木・建築・保全
-  **株式会社 横河システム建築**
システム建築・開閉式建築システム・環境
-  **株式会社 横河住金ブリッジ**
橋梁・橋梁関連製品・セグメント
-  **株式会社 榑崎製作所**
橋梁・水処理・環境製品・鉄構製品
-  **株式会社 横河技術情報**
情報処理サービス・ソフトウェア開発
-  **株式会社 横河ニューライフ**
不動産管理・情報システム・人材派遣
-  **株式会社 ワイシーイー**
橋梁等構造物の総合エンジニアリング

